

イノチの波 宙に音と生まれ 形無き楽を天空に放つ

言の葉、音と楽 Life-ing Pulsation Vol.12

地に和し合しカタチを得 新しきイノチの波を創成す by Maggiemokuren

モノに囲まれ暮らしていると、モノにあるヒトの思いをつと忘れてしまふ。生活用品、文具に雑貨、趣味指向の類のモノから、それらを入れる器としての家やマンション、部屋、時に車など・・・モノが氾濫して行く中、見えるモノばかりに心が走り、追いかけて・・・モノに込められているはずの「想いの重さ」を無視する事に慣れてしまふ。見えるモノがもたらす決定的、強力な「安心感」は心地よく、見えないモノを探し求める夢や希望を放棄し、モノに心を明け渡してしまふ。

彷徨い出でて

観光旅行というものが大の苦手で、ほとんど何処にも行った事がないままに、半世紀を、無事、過しておりました。特に、海外に出るなんて、考えた事ありませんでした。何しろ、日本が大好きですから。外国が嫌いと言うのでは無、行く必要を全く感じなかつたというだけです。第一、外国に行く事がないから、暇もなかった・・・日本でやる事があった・・・という単純な理由です。国内でも用事がない限り、何処かへ行きたいと思う事はありませんから、まあ、生来の出不精なのでしよう。元々、

た。とにかく、日本よりは暖かい。五月半ばにも関わらず、穏やかな夏のムード。基本はアメリカですから、空のストアーなどハワイを良い感じにローカルにした風情です。観光客相手の地域だからかも知れませんが、物価は決して安くはありません。日本人観光客が多く、英語混じりの日本語で十分に通用しますが、シッカリとコミュニケーションするにはやはり英語が必要ですね。現地の方々、チャモロ人は、自然に、ゆつたりと明るく、伸びやかな様子が印象的でした。「心の壁」を取り外せば、何とか片言の英語でもやっていけるような地域ではありません。街中を歩き疲れた一日の終わりの頃、一人の日本人と出会いました。本人曰く、ちよつと怪しい・・・十分怪しい、面白い日本人でした。30年前にグアムに渡つて来て、商売をしているというその方は、船場言葉を昔のままに話して、その人の周りだけ、時間が止まっているかのよう。その方の友人の飲食店に行つたのですが、其処も36年前の日本の母の手作りの料理を思い出したというか・・・全く同じパターンだったのは、驚きです。

恋をする才能

国内であれば、必要なモノはほとんど手に入り、何時でも、何処でも、案外手軽に。海外では、当然の事ながら、ありふれたモノが特別になってくる。歯ブラシや鉛筆、A4サイズの使い慣れた紙までが、宝物になってきます。旅行の携行品目は少ない方が良く、海外旅行をするようになって、モノを今まで以上に意識するようになりました。何故必要なのか、自分の思い入れを吟味して、持つて行くモノの意味を考える事になります。鞆の中に詰め込んだモノは、自身の意志の表れです。

と、考えていますから、家の近くをうろつ彷徨っているのが、安心して楽しい。そんな私が、三年ほど前からチョコチョコと日本を抜け出すようになってしまいました。長い間生きていると、どんな事が起こるか判らない。毎回、少ない荷物で如何に快適に過ごすか？を、最大のポイントに、想像力を駆使して考えます。自分のこだわり、つまり自分らしさにハツとしてたり、エッセイ的な事・・・と、思わず笑ってしまう事も度々です。今回は、ちよつとした小旅行、グアムに行つて参りました。

日本に生まれ、一生の半分以上をグアムに暮らされ、日本人である事を失わず、ままたま生きている一面を見たと感じますが、この地で頑張つて、生きていく、という逞しさを心強くも思います。次の日に会った日本の人は、最近、グアムにレストランを開いたばかりの方。所謂、今風日本人で、チャモロ人をメインスタッフにした、陽気なお店です。30年前と現在では、グアムも

グアムにて

閑空から、ほんの三時間半。時差も一時間ほどです。もちろん初めての訪問ですから、どんな所なのか全く予備知識はありませんでし

た。日本も確実に変わっている事を、事実として体感できる出会いでした。何かに魅かれ、突き動かされ、ヒトは海を渡つてしまふのです。国内であれば、必要なモノはほとんど手に入り、何時でも、何処でも、案外手軽に。海外では、当然の事ながら、ありふれたモノが特別になってくる。歯ブラシや鉛筆、A4サイズの使い慣れた紙までが、宝物になってきます。旅行の携行品目は少ない方が良く、海外旅行をするようになって、モノを今まで以上に意識するようになりました。何故必要なのか、自分の思い入れを吟味して、持つて行くモノの意味を考える事になります。鞆の中に詰め込んだモノは、自身の意志の表れです。

東京

「其の日」暮らし



タクシーのこと

一般には、「大阪はハデで、原色が多い」とは、よく言われる事。そういうわれたらそんな気もするけれど、そうかなあ？・・・何故か素直に同意できない。東京駅のタクシー乗り場は、もちろんの事、家のベランダから見えるあの派手な色のタクシー達。「あんな色のタクシー大阪では見たことないで。東京も十分ハデやんか」三年ほど前、新幹線を降りて、いざタクシーへ・・・と向かった時の印象は、「エッ、あれがタクシー？」と思わず仰天。そんな思いが根強くあつたからかもしれせん。そう、東京のタクシーはとて目立つ色あ、ヒトつて物質なんだなあ・・・自身が自分一番身近なモノなんだと。心が詰め込まれていて、スツキースの中には、ヒトの心の欠片を観る事が出来そうです。

実際、特別のモノなんか滅多になくて、モノの心をみつけた時に、自分にとって特別なモノになる。毎日、特別なモノを創り出す才能をヒトは持つて生まれていくから面白い。一瞬で何かを請い、乞い、戀をする。その瞬間から、世界が変わつてみえるから不思議です。ドウシテも知れない音があつたから、日本を出たのだ・・・英国に向かったのだと思ひ出しました。



都島区の長谷川さん宅
母犬の美未(右)と、娘の杏(左)です。
飼い主に似て、美人？親子です。

大阪を元気に！

御堂筋新聞は、2009年7月号から
【御堂筋 on Web】で発刊します。

御堂筋新聞は、1970年（昭和45年）我が国初の無料のタウン情報紙として誕生し来年40周年を迎えます。大阪の大動脈・御堂筋とともに歩んできた御堂筋新聞が「御堂筋から大阪を元気にする」を合言葉に、公式ホームページ【御堂筋 on Web】で、地域の活性化を図ります。

<http://www.mido-suji.com/>



御堂筋新聞 検索